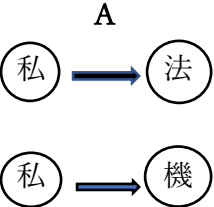
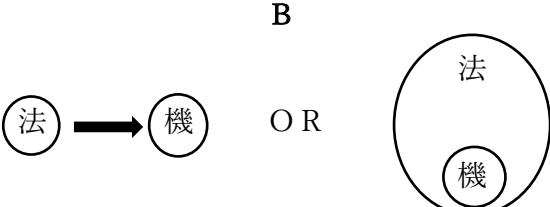


動画教材「信心」レジュメ

- ① 仏法の大海には信を能入となし、智慧を能度となす。 (『智度論』)
- ② 疑いをはなれた清らかな心で、仏道にしっかり自己を結びつけることを意味する。この信心をえてのち、智恵をみがき、仏道を修業し、仏のさとりに達するので、信心は仏道の初門である。 (『新・佛教辞典』)
- ③ 他力の信心うるひとを うやまいおおきによろこば
すなわちわが親友ぞと 教主世尊はほめたまう (『正像末和讃』真宗聖典 505 頁)
- ④ 法を聞いて能く忘れず、見て敬い得て大きに慶べば、すなわち我が善き親友なり。
(『仏説無量寿経』真宗聖典 50-51 頁)
- ⑤ きくというは、本願をききてうたがうころなきを「聞」というなり。
また、きくというは信心をあらわす御のりなり。 (『一念多念文意』真宗聖典 534 頁)
- ⑥ 師とは眠らせないもの 友とは酔わせないもの (宮城 顛氏)
- ⑦ 無碍光仏のひかりには 無数の阿弥陀ましまして
化仏おのおのことごとく 真実信心をまもるなり (『浄土和讃』真宗聖典 488 頁)
- ⑧  A  B
OR
- ⑨ ・回向とは向こうに如来がましまさぬということ、回心とはこちらに自分がいないこと。
↓ (大河内了悟氏)
・自力の回向とは向こうに如来を置くこと、自力の信とはこちらに自分を立てること。
(亀谷 考)
- ⑩ わかってはわからなくてもお念仏申しなさい。そしてお念仏に育てられなさい。
(信國 淳氏)